

あとがき

日本が今後世界の中でどのように生き残っていくかを考えるとき、資源の持たない日本としては、「頭脳」や「感性」で売っていくしかありません。現在、日本の芸術は世界の中で評価されるようになってきました。小澤征爾・北野武をはじめ、音楽・映画・美術の分野で評価されている日本人が増えています。今「感性」の分野で活躍している日本人が増えています。これは日本が豊になったからかも知れません。しかし、現在の豊かさを維持するために「知」の分野で日本が生き残るためには、新たな技術開発、新たな創造力、発想の転換が必要になってくるのではないのでしょうか。「衣食足りて礼節を知る」（『管子』）という言葉があります。ある程度の豊かさが保証されないと人間の精神は豊かにならないのかも知れません。しかし、現在これらの技術開発を支える算数・数学、理科などの学力にかけりが見えています。そこでこの研究では、算数・数学、理科を中心に、児童生徒の学習意欲を喚起させ、ひいては学力の質の向上につながるような題材・教材開発の工夫を行いました。学習内容と日常生活、産業・社会・人間にどのようにつながりを考えることによって、児童生徒が今行っている学習の意味をつかめるようにしました。この委嘱研究が少しでも今の学校教育のために貢献することができたらと願っています。

この委嘱研究を行っていくなかで気づいたことがありました。それは今回の日常生活教材作成研究会の委嘱委員は、教育学の専門家ではないということです。今回は数学・理科の専門の大学教授をお招きしました。現在国立大学法人の教育学部では、よりよい教員養成のためのカリキュラムをデザインしています。その時に教育学が専門でない先生がどのようなかたちで、このカリキュラム開発にかかわればよいかということがいつも問題になってきます。今回お集まりいただいた先生は、教育学のプロではありません。しかし、私たちが今回成し遂げた仕事は立派なカリキュラム開発の仕事に相当します。今回の委嘱研究では、教育学が専門でない先生でも教員養成のカリキュラム開発に立派に参加できることを証明するサンプルになったのではないかと思います。これからの教員養成の改革のあり方のも一石を投じるものになったのではないのでしょうか。

今回の研究に際して、多くの先生からご協力をいただくことができました。委嘱委員の皆様、題材のデータを提供していただいた研究協力者の皆様には、素晴らしい題材を提供していただきました。また、三菱総合研究所の皆様にも企業のネットワークを駆使して学習内容と製品・技術との関連を調査していただきました。さらに、研究会事務局でお手伝いしていただいた皆様には、教科書・副教材の調査から報告書の編集の作業、会議のセッティング等まで行っていただきました。皆様のご協力に対して、心より感謝申し上げます。

最後に、委嘱研究を行っている最中に他界された高城忠先生には、病の床から最後の力を振り絞って、「ウシ海綿状脳症（BSE）と異常プリオンタンパク質」「再生医療と胚性幹細胞（ES細胞）」の2つの題材を提供していただきました。これが先生の遺作となりました。日常教材作成研究会では、先生の題材を模範原稿として他の委嘱委員の参考とさせていただきます。先生のご冥福を謹んでお祈りいたします。本当にどうもありがとうございました。

（下田 好行）

研究組織

日常生活教材作成研究会・委嘱委員

研究代表者：小田 豊（国立教育政策研究所）

所内委嘱委員：下田好行（国立教育政策研究所・総括研究官）

事務局（研究の統括・編集担当）

所内委嘱委員：有本昌弘（国立教育政策研究所・総括研究官）

単元づくり班統括

所内委員：篠原岩雄（国立教育政策研究所・会計課課長補佐）

< 所外委嘱委員 >

（数学班）

岡部恒治（埼玉大学経済学部・教授）数学班統括

四方義啓（名城大学総合数理教育センター・センター長）

鈴木俊夫（山梨大学教育人間科学部・教授）

西山 豊（大阪経済大学・教授）

新田義彦（日本大学経済学部・教授）

松井 敬（獨協大学経済学部・教授）

山内一也（旭川医科大学・教授）

八田弘恵（渋谷教育学園幕張高等学校・教諭）

星野千春（新潟県立新潟向陽高等学校・講師）

石田唯之（慶応義塾普通部・教諭）

山崎浩二（東京学芸大学附属世田谷中学校・教諭）

有田八州穂（東京都杉並区立杉並第三小学校・教諭）

斎藤 斉（国立群馬工業高等専門学校・教授・副校長）

佐藤 功（群馬県教育委員会事務局高等教育課・指導主事）

（理科班）

吉田俊久（元埼玉大学教育学部・名誉教授）理科班統括

稲場秀明（千葉大学教育学部・教授）

尾崎浩巳（岐阜大学教育学部・教授）

岡崎恵視（東京学芸大学教育学部・教授）

鈴木 勲（宇都宮大学教育学部・教授）

高城 忠（東京学芸大学教育学部・教授）

山崎良雄（千葉大学教育学部・教授）

山本郁夫（横浜国立大学教育人間科学部・助教授）

池本博司（広島市立基町高等学校・教諭）

岩田雅弘（埼玉県立菖蒲高等学校・教諭）

麻生偉佐男（越谷市立東中学校・教頭）

川北裕之（千葉県立小金高等学校・教諭）

藤井健司（茗溪学園中学校高等学校・教諭）
角田陸男（筑波大学附属中学校・教諭）
熊木 徹（上越教育大学学校教育学部附属中学校・教諭）
鍋木良夫（草加市立八幡小学校・校長）
森田和良（筑波大学附属小学校・教諭）
（単元づくり班）
小田勝巳（城西国際大学・講師）
上松信義（常磐大学・講師）
有馬ゆかり（神埼郡千代田町千代田中学校・教諭）
奥山和司（山形県霞城学園高等学校・教諭）
小笹 稔（大分県日田三隈高校・教諭）
建元喜寿（筑波大学附属坂戸高校・教諭）
白鳥信義（栃木県河内郡河内町立古里中学校・教頭）
長堀 榮（埼玉県杉戸町立西小学校・校長）
角田尚子（ERIC 国際理解教育センター・事務局長）

< 三菱総合研究所 >

藪田尚宏（安全科学研究本部）調査の統括・編集担当
丸貴徹庸（安全科学研究本部）
平川幸子（安全科学研究本部）
山田秀幸（安全科学研究本部）
石原嘉一（安全科学研究本部）
松本昌昭（安全科学研究本部）
坂尾知彦（安全科学研究本部）
堤 一憲（安全科学研究本部）
瀧陽一郎（安全科学研究本部）
吉元怜毅（安全科学研究本部）
大熊裕輝（安全科学研究本部）

< 研究協力者 >

鈴木 樹（鎌倉女子大学）
熊谷明子（青山学院大学大学院）編集担当
山口理沙（青山学院大学大学院）編集担当
小林修子（大妻女子大学4年）編集担当
布村浩一（立正大学大学院）
橘高 薫
吉村理佳（山梨大学教育人間科学部3年）
川田優太（愛知県立春日井西高等学校2年）
竹内大樹（愛知県立阿久比高等学校2年）